

JAの  
お盆百科



## 1.お盆の基本を知る

どうしてお盆をするのですか？	3
お盆はいつするの？	4
お盆に関するお経があるの？	5
生御魂とは何ですか？	7
初盆(新盆)とは何ですか？	7
四十九日法要の前に初盆が来る場合は？	8
初盆の時には何を着れば良いですか？	9
お盆の時の挨拶の言葉について教えてください。	9
お盆の準備について教えてください。	9
お盆の時、金封の表書きは？	10

## 2.お寺とお盆を知る

棚経って何？	11
卒塔婆供養とは？	11
菩提寺が遠く、棚経を上げてもらえない時は？	12
棚経を他のお寺に以来したいのですが…	12
施餓鬼とは何のこと？	13
浄土真宗ではお盆をしないの？	13

## 3.盆棚・精霊棚・水棚を知る

盆棚・精霊棚はどうして作るのですか？	14
精霊って何ですか？	14
盆棚・精霊棚はどうやって作るのですか？	18
水棚とは何ですか？	18

## 4.盆棚・精霊棚のお供物を知る

盆飾りの牛と馬にはどんな意味がありますか？	19
盆棚・精霊棚へのお供物について教えてください。	20
ほおづきを飾るのはどうしてですか？	20
盆棚に素麺を供えるのは何故ですか？	21
水の子とは何ですか？	22
盆棚に芋殻のハシゴを使うのはどうしてですか？	22
迎え団子、送り団子について教えてください。	23
盆花とはどのような花ですか？	23
みそはぎとは何ですか？	23
蓮の葉の上に水を供えることもありますか？	23

どうして真菰の敷物を使うのですか？	24
盆棚にどうして金襴を敷くのですか？	24
盆棚に飾られる旗は何ですか？	24
経木塔婆はどこにお祀りしますか？	24

## 5. 迎え火と送り火を知る

迎え火と送り火の意味を教えてください。	25
迎え火と送り火は、いつどこでするのですか？	26
どうして芋殻を燃やすのですか？	26
マンションの場合は、送り火、迎え火はどのようにすればいいのですか？	27
お供物の一部を送り火と共に燃やしても構わないですか？	27

## 6. 盆提灯を知る

床置き型の盆提灯と、吊るす形の盆提灯は、どちらを選べばいいのですか？	28
盆提灯はどこに飾るのですか？	28
盆提灯はいつ購入すれば良いのですか？	28
盆提灯は一对で飾らないといけないのですか？	29
盆提灯は自分で購入しても良いのですか？	29
家紋の入った提灯を求めたいのですが。	29
初盆用の提灯について教えてください。	29
盆提灯は宗派による違いはありますか？	31
切子灯籠とはなんですか？	31
盆提灯はいつから飾ればいいのでしょうか？また、いつ片付ければいいのですか？	32
盆提灯の絹張りりと紙張りりの違いは何ですか？	33
盆提灯は一日中、灯していても良いのですか？	33
お葬式の時にいただいた提灯をそのまま盆提灯として飾っても良いのですか？	33
門提灯とは何ですか？	34
高灯籠とは何ですか？	34
盆提灯を片付けるときの注意点は？	34
盆提灯を捨てる場合にはどうしたら良いですか？	34

## 7. お盆の様々な習慣を知る

十三仏とは何ですか？	35
地藏盆とは何ですか？	36
お線香やロウソクをお盆の時に贈ろうと思っているのですが。	37
お中元は、お盆と何か関係があるのですか？	37
精霊流しについて教えてください。	38

# 1 お盆の基本を知る

Q どうしてお盆をするのですか？

A お盆とは、ご先祖様の霊をお迎えするために行われる行事です。その意味の一つは「お亡くなりになった方の霊をお祀りする」ことで、ご先祖様との命のつながりを確認する日となります。

仏教では、お盆のことを「盂蘭盆会<sup>うらぼんえ</sup>」と言い、「盂蘭盆経<sup>うらぼんきょう</sup>」というお経がお盆行事の元となっています。そこには、亡くなったご先祖様への供養と同時に、僧侶を供養することが書かれています。その「盂蘭盆経」では、7月15日を供養する日と説かれています。その為、現在の7月15日、8月15日のお盆の日取りへの影響が大きいと言われています。

日本には元来祖霊信仰があり、お盆とお正月の時季は、ご先祖様の魂が帰ってくる日とされていました。なので、仏教が伝来する以前からご先祖様を迎える行事はあったようです。日本で、お盆の行事が初めて行われたのは606年。つまり、聖徳太子の時代には、すでに行われていたのです。歌人として有名な藤原定家<sup>ふじわらのていか</sup>(1180～1235)の日記『明月記』にも、盆提灯の一つである高灯籠がすでに使われていたという記述があります。

中国では、お盆が行われる旧暦7月15日を中元と呼びます。夏の贈り物「お中元」の起源ですが、中国ではこの日、自らの日常を反省し、一日中火を炊く習慣がありました。

## Q お盆はいつするの？

A お盆は、7月15日、8月15日が中心となっています。13日に行われる迎え火（盆の入り）で始まり、16日の送り火で終わるのが一般的です。8月15日のお盆は「月遅れの盆」とも呼ばれます。地域によって、旧暦カレンダーにより行われることもあります。

江戸時代中期(1704)に発刊された『<sup>かじつとしなみくさ</sup>華実年浪草』では「七月十三日、<sup>たそがれ</sup>黄昏に及びて都鄙俱に<sup>とひとも</sup>聖霊を<sup>しょうりょう</sup>迎ふるの儀あり、<sup>こ</sup>此の時、門前に於いて必ず<sup>おがら</sup>麻殻(あさがら)を折<sup>た</sup>り、<sup>た</sup>焚きてこれを迎え火という」とあります。このことから、江戸時代には7月13日(旧暦・太陰太陽暦)に、迎え火をしていたことが分かります。また、7月一杯は<sup>ぼんづき</sup>盆月とされました。

江戸時代まで、お盆は7月の満月の夜に行われていました。江戸時代の暦では、1日(<sup>ついたち</sup>朔日)が新月、15日が満月。つまり、お月様の満ち欠けによってカレンダーが決まっていたのです。現代でも、旧暦でお盆を行う地域のお盆は、満月の夜になります。

また、8月1日(7月1日)は「地獄の<sup>かまふた</sup>釜蓋が開く日」と言われ、この日を以てお盆の始まりとする考え方もあります。

更に、7月7日の<sup>たなばた</sup>七夕を、お盆の初めの日とする考えもあり<sup>なめかぼん</sup>七日盆、「なめかび」と呼ぶ地域もあります。または、この日に仏具磨きをすることから<sup>みが</sup>「磨き盆」と呼ぶことも。盆棚作りもこの日にすると良いとする地域もあります。

七日盆を過ぎると13日の迎え盆、15日のお盆、そして16日の送り盆と続きます。

## Q お盆に関するお経があるの？

A お盆行事は「盂蘭盆経」を元に行っています。『盂蘭盆経』は竺法護(239～316)が、古代インドの言葉から漢文に翻訳したとされています。竺法護とは、莫高窟で知られる敦煌(現在の中国甘肃省)に生まれ、様々な漢訳経典に携わった僧です。しかし、古代インドの言葉で書かれたはずの『盂蘭盆経』の原点は見つかっておりません。親孝行のことを説く中国独自の考えが色濃いことから、『盂蘭盆経』はインドではなく、中国で作られたお経であったとの考え方もあります。

『盂蘭盆経』の主人公は、お釈迦様のお弟子さんの一人、目連尊者です。目連尊者は、神通力に優れ、冥界にいる父母がどのようなしているかを見たとこ  
ろ、餓鬼道に堕ちて痩せ衰えた母の姿を見てしまいました。食べ物を口にしようとすると食べ物が燃えてしまい、食べることができずに苦しむ母の姿を見て、悲しみに暮れた目連尊者は、お釈迦様の元へ行き、母を救う方法を訪ねます。すると「僧侶の雨季



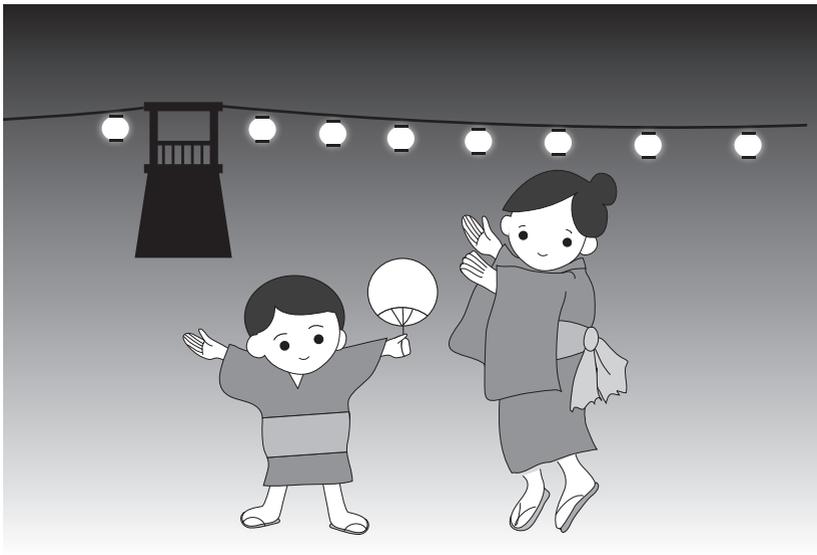
目連さんとお母さん

の修行が終わる七月十五日、七代前のご先祖様から今の親の為に、多くの飲食物などを僧侶に供え祈願してもらいなさい。そうすれば苦しみから離れて幸せになるでしょう」

これを聞いた目連をはじめとするお弟子さん達は、大変喜びました。その喜びを表したものが盆踊りの起源の一つとも言われています。

お釈迦様の時代から出家者（僧侶）は、夏の雨季に修行をしていました。それが終わる7月15日は、反省と懺悔<sup>ざんげ</sup>を行う日でもあります。そして「この日を、ご先祖様や父母の供養の日にせよ」と伝えました。

お盆とは、ご先祖様をお迎えすると同時に、自らの行いを反省する日でもあるのです。



Q <sup>いきみたま</sup> 生御魂とは何ですか？

A お盆の時に、父母の孝養を尽くすことを『生御魂』と言います。  
お盆の時には、父母に飲食などを以て尽くすようにと、お盆のお経である『盂蘭盆経』では伝えています。そうすれば「現在父母 寿命百年無病」の文字通り、父母が病気をせず長生きをすることです。

この『生御魂』は、室町時代から行われていた習慣で、お祝い事としての側面もありました。まだ仏壇を持っていない方にも、ぜひおすすめしたいお盆行事です。

Q 初盆(新盆とは何ですか？

A 亡くなられて四十九日の法要が終わった後、つまり忌明け後に初めて迎えるお盆のことを特に初盆、または新盆(しんぼん・あらぼん)と呼んでいます。親類や知人が集まり、丁寧に供養をします。

初盆の際に、白木で白い火袋の提灯の他、特別な提灯を用いる地域もありますが、最近では絵が描かれたの普通の提灯を用いる地域も増えています。その一方で、特別な初盆用の供養具を用いる地域もあります。

関西地方の一部では「新棚」と呼ばれる小型のお社の中に経木塔婆を祀ったり、精霊船に乗せたりします。これは初盆を迎える霊が「新仏」「荒魂」と呼ばれ特別な精霊とされるためです。

---

## Q 四十九日法要の前に初盆が来る場合は？

---

**A** 一般的に、四十九日前にお盆が来る場合は、2年目のお盆を初盆とします。例えば、8月上旬にご家族が亡くなった場合、8月15日のお盆は、四十九日法要の前に来ることになります。この場合は、亡くなった翌年の8月15日が初盆です。

ただし、6月26日に亡くなった場合には、迎え火の8月13日が四十九日法要の日となります。その年の夏を初盆とするかは微妙なところ(7月盆の場合は5月26日)。

また、6月28日に亡くなった場合には、8月15日が四十九日法要の日となります(7月盆の場合は5月28日)。このような場合には、初盆供養を行う為に、四十九日法要を三十五日法要で切り上げたり、そのまま初盆とする方もいらっしゃいますが、お寺様に相談してみると良いのではないのでしょうか。

無くなったその夏に初盆を行わない場合でも、周囲の方から、供養品をお持ちになられる方もいらっしゃることでしょう。その様な場合には、供養品は受け取った上で、来年に初盆を行う説明をすると良いでしょう。「この度は、お盆の供養品を頂戴し、ありがとうございました。個人も喜んでおりますただ、四十九日法要の前ということもあり、正式な初盆は来年の夏に行いますので、宜しく願い申し上げます」のように、手紙等でお礼を申し上げれば良いでしょう。

## Q 初盆の時には何を着れば良いですか？

A 招く方も、招かれる方も、喪服を着ることが基本となりますが、地味な服装であればかまいません。初盆以降も、正式な法要を行う場合には地味な服装が良いでしょう。

## Q お盆の時の挨拶の言葉について教えてください。

A 招いた側の挨拶としては、「本日はお暑い中、当家先祖(または故人)のためにお盆供養にお越しいただき本当にありがとうございます。」、招かれた側は「本日はお盆供養にお招きいただきありがとうございます。」という言葉の基本とすると良いでしょう。



## Q お盆の準備について教えてください。

A ぼんちょうちん ぼんだな しょうりょうだな 盆提灯、盆棚・精霊棚、おがら 迎え火送り火の為の苧殻等、お盆用品の準備をします。

盆提灯は盆月の初旬から飾っても大丈夫です(盆月の朝日ついたちから飾る地域もあります)。盆提灯が古くなって壊れているものは、買い換えることをお勧めします。

また、初盆ならではの盆棚(新棚)<sup>あらだな しょうりょうふね</sup>・精霊船等の供養具を地域によって用いる場合があります。早めに準備しましょう。

盆棚は、お位牌を仏壇から取り出し中心に飾ります。地域によって作り方が大きく異なりますが、この際に、お仏壇やお仏具も、お掃除・お手入れをすると良いでしょう。

繰出位牌の場合には戒名が書かれた札板を全て外に出してお祀りする地域もあります。

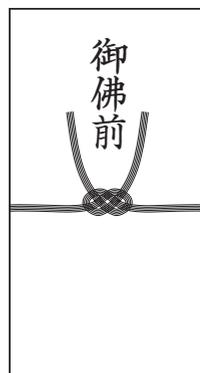
お位牌でなく、経木塔婆<sup>きょうぎとば</sup>を祀る場合には、ご自分でお買い求めになり、<sup>かみょう</sup>戒名を書くようにします。

それと同時に仏壇のお掃除もしますが、破損した仏具類などは買い換えることをお勧めします。香炉の灰は新しいものと取り替えます。

お墓のお掃除も、済ませておきましょう。

## Q お盆の時、金封の表書きは？

A 代表的なのは「御佛前」<sup>ごぶつぜん</sup>「御供物」<sup>おくもつ</sup>です。水引きは黄と白が基本ですが、黒白の場合もあります。「御佛前」は四十九日以降の表書きとしては一般的ですが、地域によって「御霊前」<sup>ごれいぜん</sup>等の場合もあります。また、提灯を贈らない代わりに「御提灯料」<sup>おちょうちんりょう</sup>とすることもあります。お返しをする場合には「志」<sup>こころざし</sup>となります。



## 2 お寺とお盆を知る

### Q たなぎょう 棚経って何？

A 棚経とは、お盆の時にぼんだな盆棚・しゅうりょうだな精霊棚や仏壇の前でお経を読んで頂くことです。棚経の棚とは、盆棚・精霊棚のこと。お寺様はお盆の時季は特に忙しいので、早めに棚経のお願いをしておくとい良いでしょう。

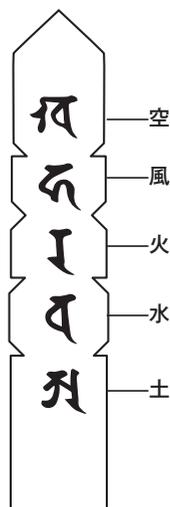
### Q そとうぼ 卒塔婆供養とは？

A お盆の時、菩提寺に詣で、卒塔婆を書いて頂き、お墓に建てる場合があります。

卒塔婆の語源は、仏塔を意味するストゥーパです。これは、お釈迦様がだび荼毘(火葬)に付された後、その舍利(骨)を収めたもの。ストゥーパは仏教国に広がり、日本で見るのことの出来る、三重塔や五重塔も、ストゥーパの一つの形です。

卒塔婆の先端は、五輪塔を象った刻みがあります。五輪塔のそれぞれの部分は、空・風・火・水・地を意味し、仏の世界のシンボルとなっています。

卒塔婆供養をお願いした場合、金封の表書きは「卒塔婆料」あるいは「御布施」が良いでしょう。墓地に立てる卒塔婆とは別に、小型のきょうぎとぼ経木塔婆を仏壇前にお供えする地域もあります。



---

Q ぼだいじ 菩提寺が遠く、棚経を上げてもらえない時は？

---

A 自分のお墓のあるお寺である、菩提寺が遠く、棚経に来て頂けない場合は、菩提寺に書状で依頼状を送り、お盆の供養をお寺でしていただくようにお願いします。その際、卒塔婆供養も同時にお願いすると良いでしょう。書状と共にお盆供養の為の「御布施」、卒塔婆の「卒塔婆料」等を同封します。

例えば、履修以前に出す書状の内容としては、「謹啓 盛夏の候ますますご清栄のことと存じ上げます。日頃より当家代々先祖、または当家の為に心づくしを頂きありがとうございます。さて、この度お盆に当たりますには、本来棚経に来て頂くべきところ、遠方である為に大変かってなお願いではございますが、貴寺にて当家先祖代々の棚経供養、並びに卒塔婆供養をお願い致したく存じ上げます。施主名は〇〇〇〇でございます。

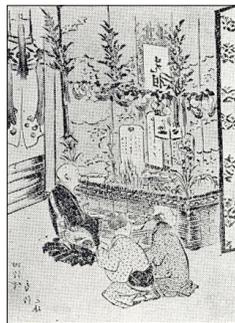
以上、何卒よろしくお取りはからい賜りますようお願い申し上げます。時節柄ご自愛の上、益々ご活躍下さいませ。 敬具」

---

Q 棚経を他のお寺に以来したいのですが…

---

A 霊園等に墓地がある場合には、棚経に来て頂くお寺との関係がないこともあります。そのような際には、ご相談下さい。菩提寺が遠い場合にも、近くのお寺様に棚経をお願いすることがあります。



江戸時代の棚経の様子

## Q 施餓鬼とは何のこと？

A 餓鬼道法要とは、餓鬼道に堕ち苦しむ靈に、食べ物を施すことで供養をする仏教法要です。また、無縁仏を供養する為に、寺院で行われるという性格もあります。餓鬼道とは死後の世界の一つで、食べ物等を得ることが出来ない苦しみの世界です。無縁仏とは供養する親族縁者が無くなった靈のことを言い、“無縁様”と呼ばれる場合もあります。

施餓鬼法要は『救拔焰口餓鬼陀羅尼經』を元にした仏教行事です。お釈迦様の弟子である阿難尊者が自分自身が餓鬼になることを免れる為、餓鬼に食べ物を与え供養したことが書かれています。

餓鬼法要は文字通り「餓鬼に施しをする法要」で、元々は時季を定めずに行うものでした。しかし、お盆法要と同じ時季に行われるようになったことから、お盆の行事と施餓鬼法要が表裏一体の関係となりました。

## Q 浄土真宗ではお盆をしないの？

A 浄土真宗は宗派の教えとしてお盆行事を行いません。浄土真宗では、無くなった後に極楽浄土に往くので、例えば『盂蘭盆經』に説かれるような餓鬼道での救いが必要ではないからです。この部分に関しては、お寺様に確認されるのが良いと思います。精霊棚を作ったり、送り火、迎え火等を行わないことを原則とします。しかし、実際には地域の習慣によるお盆行事を行うお宅もあります。

### 3 盆棚・精霊棚・水棚を知る



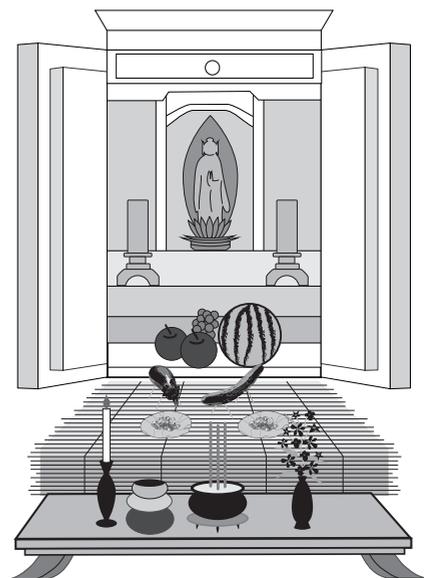
ぼんだな しょうりょうだな

盆棚・精霊棚はどうして作るのですか？

A

お盆の時に、特別作られる棚のことを、盆棚・精霊棚たまだな・魂棚と呼びます。精霊棚は、ご先祖様を迎える舞台となり、ご先祖様のご位牌を中心に、様々なお供えをします。

屋内や屋外または屋内外に設置する場合があります。地域によって、屋外みずだなに水棚を設ける場合があります。



仏壇を盆棚にした場合のお飾り例



精霊って何ですか？

A

精霊は「しょうりょう」「しょうらい」「しらい」等、様々な呼ばれ方をしています。ご先祖様や無縁様の霊など、亡き人の霊のことを言います。特別に、初盆の方の精霊を「新仏あらぼとけ」「新精霊あらじょうろう」と呼び、特別な盆棚や供養具を作る地域もあります。

## 盆棚《精霊棚》の作り方の一例

## 【吊るすもの】



ほおづき



昆布



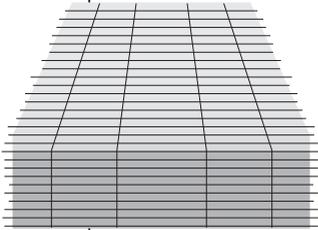
みそはぎ



そうめん

さや付き  
枝豆

## 【盆楯精霊棚の上に置くもの】



敷物(1)真菰



花瓶



位牌



燭台



敷物(2)金襴

キュウリの馬



香炉

ナスの牛



蓮の葉+水の子



蓮の葉+みそはぎ+水



盆棚・精霊棚となる棚・机

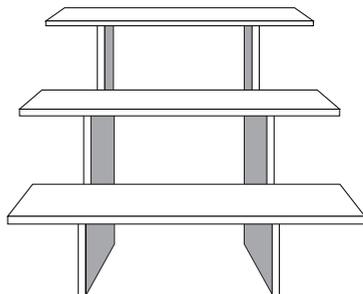


※地域によって内容は異なります。

## 盆棚《精霊棚》の作り方の一例

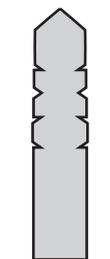


支柱形式の盆棚(精霊棚)



ひな壇形式の盆棚(精霊棚)  
地域によってはお盆の祭壇となります。

### 【盆棚精霊棚のお供物】



経木卒塔婆



お団子



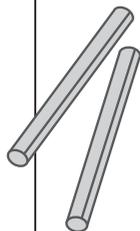
お菓子



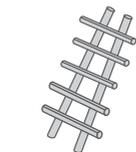
霊供膳  
(霊具膳)



果物



芋殻



芋殻のはしご



芋殻のお箸



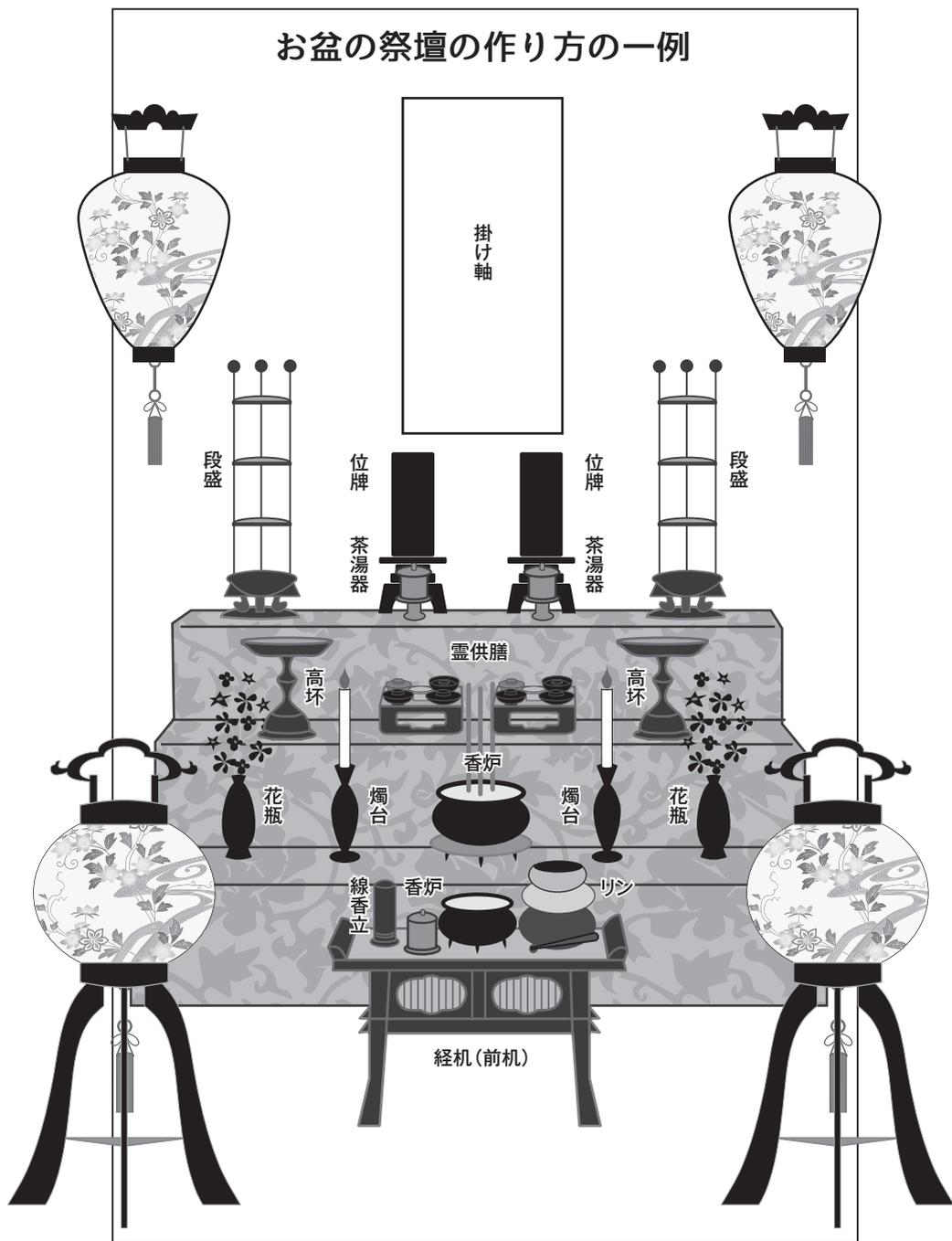
芋殻の  
迎え火・送り火

キュウリの馬、ナスの牛の  
足を芋殻で作る



※地域によって内容は異なります。

## お盆の祭壇の作り方の一例



---

## Q 盆棚・精霊棚はどうやって作るのですか？

---

A 地域やご家庭によって様々ですが、一枚の棚の四隅を支柱で支えるものと、ひな壇形式のものが、最近では良く見かけられます。

ひな壇形式の場合には金襴きんらんや真菰まこもを敷き、最上段にお位牌をお祀りする形式の祭壇とします。

また、床の間に盆飾りをする場合や仏壇の膳引きと呼ばれる棚を盆棚・精霊棚にする形式などがあります。

初盆の場合に、特別な盆棚を作る地域もあります。

---

## Q 水棚とは何ですか？

---

A お盆の時に、屋外に水棚と呼ばれる棚を設ける地域があります。水棚は先祖を迎える場所であると同時に、様々な霊を迎えもてなす場所です。ですから水棚を祀る地域でも大半の場合は屋内に自分の先祖用の盆棚・精霊棚を設けています。水棚の設置は屋外ですが、壁や柱に固定する場合と、柱を立てて、その上に設置する場合とがあります。設置期間は、お盆の最中の場合と、お盆の前後1ヶ月とする場合があります。

この水棚に蓮の葉を敷いた上に「水みずの子こ」を供える場合が多いようです。水の子とは糞さいの目に切り刻んだ茄子やキュウリと洗米せんまいをもったものです。水の子は盆棚にも供えられるもので、お盆くもつの供物として一般的なものとなっています。

## 4 盆棚・精霊棚のお供物を知る

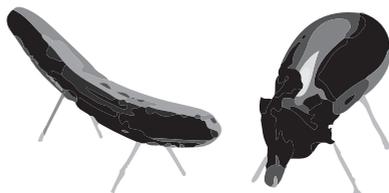
Q 盆飾りの牛と馬にはどんな意味がありますか？

A 牛や馬は、かつて農耕生活の中で欠かせない動物でした。盆棚に飾る牛や馬はそうした生活を反映したもののなのです。また、お盆の時には、牛や馬を休ませる事によって上部であるように祈ったとも言われています。

盆棚の厩牛はキュウリや茄子、<sup>わら おがら</sup>藁や芋殻等で作られますが、現在では先祖の乗り物として解釈されるのが一般的です。この風習は、江戸時代には、すでに見ることが出来ます。俳人として有名な<sup>こぼやし いっさ</sup>小林一茶の句には「<sup>なすび うまやく あいつとめ</sup>すね茄子、馬役を相勤めけり」「<sup>うり うまほとけならび</sup>瓜の馬御仏並におがまるる」（1823年）というものがあります。

また、江戸時代の文献には「七月十三日から樹後日まで、家々ではその先祖を祭り、そこには必ず茄子の牛とキュウリの馬を飾る」と記したものもあります（1851年、<sup>ふじもちこうあん しゅんろううししょう</sup>藤森弘庵『春雨樓詩鈔』）。

茄子はその形から牛となり、キュウリはその形から馬と連想されてきましたが、実は地域に寄って茄子が馬ということもあります。複数飾ったり、牛か馬のどちらかを飾る場合もあります。



---

**Q** 盆棚・精霊棚へのお供物について教えてください。

**A** 『盂蘭盆経』では、お釈迦様が次のような物をお盆のお供物として挙げています。「具飯百味五果汲灌盆器。香油錠燭。」

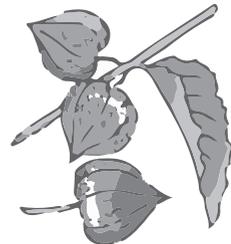
五味五果とは様々な食事と果物のこと。そしてお香(香油)と錠燭(灯火)を供えなさいという意味です。それらは盆器に盛るように指示されています。これは仏具であり、場合によっては蓮の葉や里芋の葉ということになります。地域によって違いますが、主に次のようなものがあります。

- (1) 稲・アワ・キビ・とうもろこし等の稲(吊るされる物)
- (2) 里芋などの農作物(里芋の葉は供え皿にもなる)
- (3) ほおづき・ハマナス等の赤い実(吊るされる物)
- (4) そうめんやうどん等の麺類
- (5) 水の子
- (6) お団子
- (7) 供え皿となる蓮の葉(里芋の葉)
- (8) 盆花

---

**Q** ほおづきを飾るのはどうしてですか？

**A** 盆棚やお仏壇の前にほおづきを下げる地域があります。ほおづきは「鬼灯」とも書かれ死者の提灯であるとも言われています。東京では浅草寺で7月9・10日に行われる「ほおづき市」が有名です。





## 盆棚に素麺を供えるのは何故ですか？

**A** 素麺を供養とする由縁は、七夕にあり、七夕の風習が盆棚の素麺に引き継がれたと考えられています。

けんぎゅう なつひこぼし 牽牛(夏彦星)としよくじょ おりひめぼし織女(織姫星)の伝説で知られる七夕は元々お盆行事と関係が深く、笹は先祖の霊が宿るところともされています。



七夕は針仕事の上達を願うお祭りでもあります。素麺は糸に見立てられ、針仕事上達の供物とされて来ました。その習慣が先祖を招く盆棚にも取り入れられたという説もあります。

また、素麺を食べると熱病にかからないという言い伝えがあり、平安時代、宮中の七夕行事きっこうでん(乞巧奠)では、素麺が熱病除けとして、用いられました。

盆棚に供物などを供える時には、蓮の葉を盆として用いることがありますが、これは「お盆」の語源の一つであると考えられています。



## Q 水の子とは何ですか？

A ナスやキュウリ、カボチャなどを  
賽の目に切り、水鉢や蓮の葉や里  
芋の葉の上に備えたものを「水の子」と  
呼びます。地域によってはこれに洗米を  
加えます。この水の子を、アライアゲ、ア



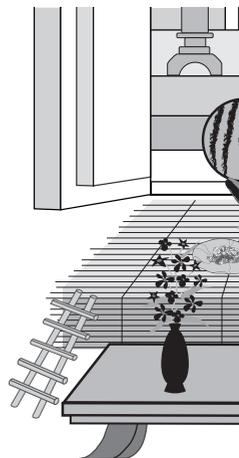
ラゲ、ミズムケなどと呼ぶ地域もあります。水に浸すのは「ご先祖様の喉  
が渇かないように」と考える地域もあります。

水の子の「水」は浄化する力があります。亡くなられた方に供える水の  
ことは「水向け」と言われるように、様々な精霊を浄化し供養する役割が  
「水の子」にはあるのです。

## Q 盆棚に芋殻のハシゴを使うのはどうしてですか？

A 芋殻とは、麻の茎の皮を剥ぎとったも  
ので、迎え火や送り火の薫物としても  
用いられますが、この芋殻で作られた<sup>はしご</sup>梯子を  
盆棚に置く地域があります。

この梯子の意味は、はっきりと分かっては  
いません。しかし、精霊棚にご先祖様が上る  
道具であるとか、この世とあの世を結ぶ道具  
であるとも言われています。また、精霊棚と仏  
壇を結ぶ階段とする考えもあるようです。



Q 迎え<sup>だんご</sup>団子、送り団子について教えてください。

A 迎え団子、送り団子は盆棚のお供えです。ご先祖様をお迎えする時やお見送りする時の、ご先祖様の食事となります。

Q 盆花<sup>ぼんばな</sup>とはどのような花ですか？

A 盆棚・精霊棚に飾る花を、特に盆花と呼ぶことがあります。盆花には生花と造花があり、ご先祖様がそこに宿るとも言われます。生花では、桔梗・撫子・山百合・萩・鬼灯・女郎花など、秋の花が主です。

Q みそはぎとは何ですか？

A 地域によっては「みそはぎ」と呼ばれる花を盆棚に飾ることがありますが、このみそはぎは茎の先にたくさん  
の淡い赤紫の花を着けます。「みそはぎ」は元々「<sup>みそぎはぎ</sup>禊萩」と呼ばれていたそうです。<sup>みそぎ</sup>禊という言葉からも分かるよう、浄めに使われるものです。みそはぎを水に浸したものを玄関で振って祖霊を迎える準備とする地域もあります。



Q 蓮の葉の上に水を供えることもありますか？

A 蓮の葉の水は「<sup>あか</sup>闕伽」と呼びます。仏教では供養のためのお水のことを特に闕伽と呼び、<sup>けが</sup>穢れを払う水とされます。

## Q どうして真菰まごもの敷物を使うのですか？

A 真菰は『古事記』『日本書紀』などにも登場する植物で、薬用成分を含み、お釈迦様は真菰の敷物に病人を寝かせて、治療したと言われています。仏事に限らず神事でも使われる真菰は、宗教性の高い敷物です。

## Q 盆棚ぼんたなにどうして金襴きんらんを敷くのですか？

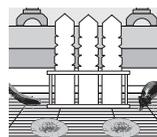
A 金襴は金糸を織り込んだ織物で、高価であることから特別な織物でご先祖様を迎える敷物として適しています。

## Q 盆棚ぼんたなに飾られる旗はたは何ですか？

A 寺院の施餓鬼せがきぼんでは「施餓鬼幡」と呼ばれる旗を、期間中掲げます。この施餓鬼幡は宝勝如来ほうしょうによらい・妙色身如来みょうしきんにょらい・甘露王如来かんるおうによらい・広博身如来こうぱくしんにょらい・離怖畏如来りふいによらいの五如来の名前を記したもので、旗にその名前が記されています。盆棚に揚げられる旗も同様のものが多いようです。

## Q 経木塔婆きょうぎとばはどこにお祀りしますか？

A 薄い木製の塔婆のことを特に経木塔婆と呼び、戒名を書いたものをお仏壇の前に祀る地域があります。経木塔婆は自分で書き、戒名を書いても構いません。



## 5 迎え火と送り火を知る

Q 迎え火と送り火の意味を教えてください。

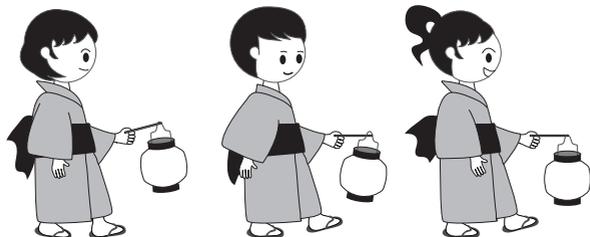
A ご先祖様をお迎えするのが迎え火、送るのが送り火です。

迎え火は先祖が帰ってくる時の目印になり、送り火は私達がしっかりご先祖様をお見送りするという証になります。



迎え火は玄関口で行う場合もあれば、お墓で行う場合もあります。その形態は様々で、お墓で迎え火用の提灯に口ウソクの日を灯し、家までご先祖様を導く地域もあります。

素焼きのお皿（焙烙）の上でおがら（麻の皮を剥いだ後に残る芯の部分）を燃やす習慣は、今から200年以上前の江戸の街でも盛んに行われていました。



---

## Q 迎え火と送り火は、いつどこでするのですか？

---

**A** 迎え火は8月13日(7月13日)、送り火は8月16日(7月16日)を行うのが一般的です。しかし、それは地域によって異なります。また、必ずしもこの日だけに限る必要もありません。忙しい現代、あるいは様々な事情がある場合も多く、この前後を中心に行えば良いのです。さらにそれも難しい場合には、7月初旬から8月中旬にかけて行えば良いでしょう。

迎え火、送り火を何処で行うかは、地域の習慣、さらには居住形態などによって異なります。江戸時代の江戸の街の場合には戸口で行うことが一般的。素焼きのお皿で芋殻おがらを焼き、迎え火・送り火としていました。また、お墓で迎え火・送り火を行う地域などもあります。時間的には夕刻にかけて行うのが基本です。

迎え火・送り火は玄関口やお墓などで行いますが、安全を確認出来る場所で行うことが、最も大切です。

---

## Q どうして芋殻おがらを燃やすのですか？

---

**A** 芋殻は麻の皮を剥いだ後に残る芯の部分のことです。麻は古来より清浄な植物と考えられてきました。清浄な植物なので、悪いものを寄せ付けないと考えられていたのです。また、燃やすということも清浄な空間を作り出す行いです。

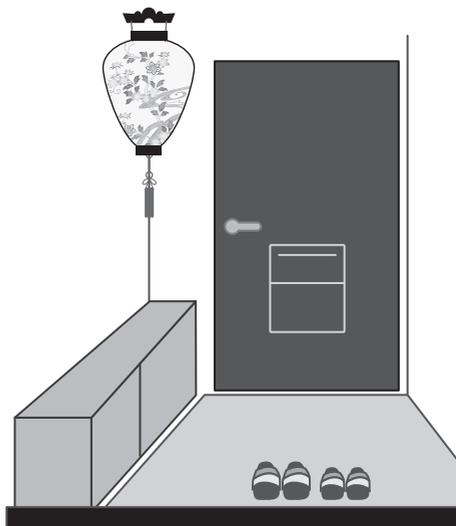
お盆は先祖の霊ばかりでなく、諸霊を慰めるものですが、悪さをする霊を家に迎えないという意味も芋殻の迎え火には込められています。



**Q** マンションの場合は、送り火、迎え火はどのようにすればいいですか？

**A** マンションなどの共同住宅の場合、玄関先やベランダ・バルコニーで実際に迎え火や送り火を焚くことは非常に難しいと思います。

その代替りの方法としてまず考えられるのが、盆提灯を玄関に吊るすこと。盆提灯の中には、門提灯と呼ばれる門前・玄関先に立てる提灯が



ありますが、岐阜提灯(壺形提灯)や門提灯など吊るす形式の提灯を玄関先に飾るようにします。次に考えられるのが窓際に吊るすことです。同じく吊り形式の盆提灯を用います。

**Q** お供物の一部を送り火と共に燃やしても構わないですか？

**A** 盆棚・精霊棚のお供えはお盆が終わった後に処分しますが、地域のルールに従いましょう。お供えの一部(真菰のゴザの一部など)を送り火の時に一緒に燃やした後、処分するという方法もあります。

## 6 盆提灯を知る

**Q** 床置き型の盆提灯と、吊るす形の盆提灯は、どちらを選べばいいのですか？

**A** 盆提灯には吊るすタイプと、床に安置するタイプがありますが、どちらの製品でも構いません。吊るす形式の盆提灯には、岐阜提灯ぎふちようちん（壺形）こてんまる・御殿丸・住吉すみよし・博多長はかたながなどがあります。床置き型の製品にはおうちあんどん大内行灯と呼ばれる三脚形式の他、最近ではマンションなどにもマッチするデザインの製品もあります。狭いスペースの場合には、吊るすタイプの盆提灯が良いかもしれません。地域によって良く使われる提灯もありますので、贈り物にする場合には確かめた方が良いでしょう。

**Q** 盆提灯はどこに飾るのですか？

**A** 盆提灯は盆棚・精霊棚の前、または仏壇の前に飾るのが基本です。迎え火、送り火としての灯火にする場合は玄関か窓際に飾ります。

**Q** 盆提灯はいつ購入すれば良いのですか？

**A** お盆の時に用いる提灯としては、6～7月が中心となりますが、一年を通してお買い求め頂けます。地域によっては葬儀時に喪主の方に送ることもあるので、この場合も通年のお買い求めとなります。

---

**Q** 盆提灯は一对で飾らないといけないのですか？

---

**A** 盆提灯は一对を基本として飾る習慣を持つ地域もあり、一对で飾るのが理想です。ただし、スペースの問題もあり、飾る場所が狭い場合には一对でなくとも大丈夫です。

---

**Q** 盆提灯は自分で購入しても良いのですか？

---

**A** 地域によって、盆提灯をご親族の方が送る風習が強い場合もあります。ご自身で用意されても、送られたものでも、どちらでも大丈夫です。贈り物にする場合は、相手の意向を確認しましょう。

---

**Q** 家紋の入った提灯を求めたいのですが。

---

**A** 家紋入り提灯の場合、家紋を入れる制作期間が必要となります。なるべく早く注文しましょう。

---

**Q** 初盆用の提灯について教えてください。

---

**A** 初盆の際には、白木地で白い火袋をもった提灯を飾る地域が多いようです。盆提灯と同様の形式の製品の他、白木の屋根付灯籠とうろうや六角灯籠の場合もあります。初盆時ににぎやかな飾りをもった切子燈籠を飾る地域もあります。ただし、白木提灯を使わない地域、屋外のみ白き提灯を用いる地域もあります。

## 盆提灯の種類



岐阜提灯・壺型



御殿丸



博多長



住吉



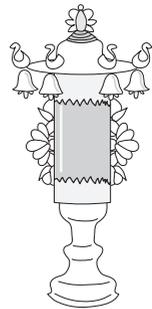
大内行灯



大内行灯・家紋入り

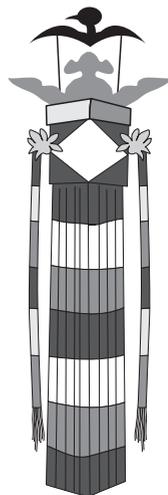


霊前灯

霊前灯  
バブル灯

## Q 盆提灯は宗派による違いはありますか？

A 盆提灯に宗派の違いはありません。しかし、浄土真宗の場合には独自の切子灯籠きりこも用意されています。また地域性による違いがあります。初盆の時には白木提灯が基本となります。



切子灯籠  
(真宗用)

## Q 切子灯籠とはなんですか？

A 浄土真宗では、切子灯籠を用いますが、近畿・四国地方の一部などでは豪華な切子灯籠を初盆で用いる習慣があり、全国的に見ても切子灯籠を用いる地域は多くあります。盆提灯の

習慣が広まったのは江戸時代です。切子灯籠は盆提灯の代表的なもので、軒先に吊るされた切子灯籠を描いた資料を多く見ることが出来ます。

うたがわくにさだ 歌川国貞(1786～ 1865) の浮世絵「五節句のうち文月」には、切子灯籠の下で盆踊りを楽しむ女性の姿を描いたものがあり、十九世紀初頭の『阿波国風俗問答』では「夜分は軒にぎりこ灯籠きりこを灯し申し候」という一文があります。

切子灯籠は角を落とした多面体の火袋を特徴としますが、この多面体は「籠目かごめ」であり、籠目には悪霊を払う力があるとされています。また、切子灯籠の隅に付けられる垂流は、無縁むえんの精霊しょうりょうの魔を除ける力があるとされています。初盆用の灯籠として用いられる場合は新霊あらたま(荒魂) に対するの灯籠ということになります。



盆提灯はいつから飾ればいいのでしょうか？  
また、いつ片付ければいいのですか？

**A** 8月のお盆の場合は8月初めから、7月のお盆の場合は7月初めから飾って大丈夫です。片付けるのは、お盆明けの17日意向ということになります。ただ、8月のお盆の場合には8月一杯まで、7月のお盆の場合には月を超えて8月初旬まで飾っても構いません。

幕末の江戸の街の様子を記録した『えどふないえほんふうぞくおうらい江戸府内絵本風俗往来』には、初盆の白提灯や大きな切子燈籠が吊るされていた様子が描かれています。

「年々七月ついたち朔日の夕より江戸市中毎ト盆提灯を店の軒下につる大店は  
おおうりがた大瓜形の白張をとおおでんまちょうもす大伝馬町おおだなの如き大店のつらなる処は 戸々  
しろちょうちん白提灯なり きりことうろう又切子燈籠をともす店もあり 今夜より八月五日或いは  
七日迄なり 此の中毎夜点して佛ほとけの供養とす 八月以降は無縁むえんの佛に  
供すといふ」

江戸時代は7月のお盆でしたが、7月1日ついたち(朔日)から8月の5日あるい7日まで盆提灯に火を灯し続けたと記されています。7月は仏、つまりご先祖様のためで、8月は無縁様のためでした。

7月にお盆を行う地域では、この習慣に倣って8月初旬まで盆提灯を飾ることも考えられます。8月お盆の地域の場合には、やはり8月一杯ということになるでしょう。



『江戸府内絵本風俗往来』より

---

**Q** 盆提灯の絹張りきぬばと紙張りかみの違いは何ですか？

---

**A** 盆提灯の灯りが点ともる部分ひぶくろを火袋と呼びます。この火袋には、絹を張った製品と紙を張った製品とがあります。一般的に言えば、絹張りの製品の方が光が通過しやすく明るい雰囲気、紙張りの製品は幽玄な雰囲気となります。

絹張りには「二十張りにじゅうば」の製品があり、この製品の場合には内張り・外張りの二十の火袋となり、より柔らかい光のイメージとなります。実際にご覧になってお確かめ下さい。

光源は電気灯、電池灯があり、回転灯籠タイプもあります。

---

**Q** 盆提灯は一日中、灯しても良いのですか？

---

**A** 盆提灯は夜に点灯するのが基本です。現在は電気灯、あるいは電池灯で安全性も高く、一日中点灯しても構いませんが、適宜、スイッチを切るようにしましょう。

基本的には夜を中心とした点灯とし、お盆の期間中は必要に応じて昼間も点灯してみてもいいかがでしょうか。

---

**Q** お葬式の時にいただいた提灯をそのまま盆提灯として飾っても良いのですか？

---

**A** 四十九日法要まで使用した霊前灯あんどんと呼ばれる提灯（行灯）などを、そのまま盆提灯として用いる習慣を持つ地域もあります。

---

**Q** 門提灯とは何ですか？

---

**A** 盆提灯の中でも、門口に飾る提灯のことを特に門提灯と読んでいます。迎え火や送り火のシンボルともなる提灯です。

---

**Q** たかとうろう 高灯籠とは何ですか？

---

**A** 屋根を越えるほど高く掲げた灯籠を高燈籠と呼びます。鎌倉時代に書かれた『めいげつき明月記』には京都で高燈籠が使われた記述があり(1230年)、江戸時代、東京青山では高く提灯をあげることが大流行し「百人町の高灯籠」「青山の星灯籠」と呼ばれる程の名物になりました。今も同様の高灯籠を掲げる地域があり、精霊を迎える目印となります。

---

**Q** 盆提灯を片付けるときの注意点は？

---

**A** 明かりの灯る火袋に絵柄の入った盆提灯の場合、毎年使えますので、使用後は丁寧に置いていた箱の中に戻します。この際にはお香などの防虫剤を入れて仕舞うと良いでしょう。

---

**Q** 盆提灯を捨てる場合にはどうしたら良いですか？

---

**A** 初盆用の白木提灯は初盆のみの使用なので原則処分しますが、その方法は地域ルールに従いましょう。提灯の一部を送り火の素焼きの皿上で焼き上げ、その他の部分は捨てることも一つの方法です。

---

## 7 お盆の様々な習慣を知る

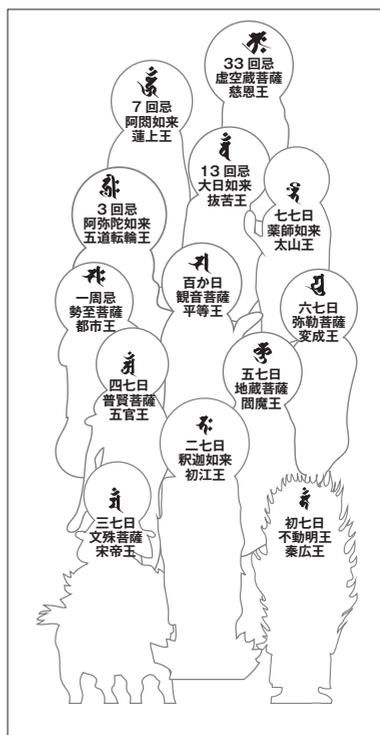
### Q 十三仏とは何ですか？

A 地域によってはお盆の棚に十三の仏が描かれた掛軸をお祀りすることがあります。これは十三仏と呼ばれる仏様で、初七日から四十九日までの七回忌の法要、その後の百ヶ日、一周忌、三回忌、七回忌、十三回忌、三十三回忌の十三回の法要において、それぞれ故人の救済に当たるとされます。

十三の仏は図の通りですが、真言宗の場合には大日如来、浄土真宗の場合には阿弥陀如来、天台宗・禅宗の場合は釈迦如来がそれ



真言宗十三仏



釈迦如来を中心とした十三仏

それぞれ中心に描かれたものをお祀りするようになります。十三仏を供養することは、ご先祖様への供養になるばかりではなく、ご自身の供養のためでもあると『十王経』に書かれています。

## Q 地蔵盆とは何ですか？

A 地蔵盆はお地蔵様の縁日である8月24日を中心に行われる地蔵菩薩のお祭りのことですが、子供が主役になることが多く、子供のためのお祭りという性格を強く持ちます。現在では、24日に限らず直近の土曜日、日曜日に行くことも多く、また二日間にわたって行われていた地蔵盆を一日で行う場合も多いようです。

お地蔵様は子供を救い、子供の成長を助ける菩薩として、古くは平安時代から人々の信仰を集めてきました。子供の成長を願う時、また夭折ようせつした子供の平安を祈る時、お地蔵様に祈る人は現在でもたくさんいます。

お地蔵様は町の辻に立っていたり、小さな地蔵堂にお祀りされたりしますが、地蔵盆ではお地蔵様の前掛けを新しくしたり、地域によってはお化粧したりし、地蔵盆用の提灯を飾ります。辻のお堂の中のお地蔵様の場合には、わざわざ特設の場所に安置することもあります。

関西地区では子供が生まれると、健やかな成長を祈り、子供の名前を記した提灯を地域のお地蔵様に奉納する習慣もあります。

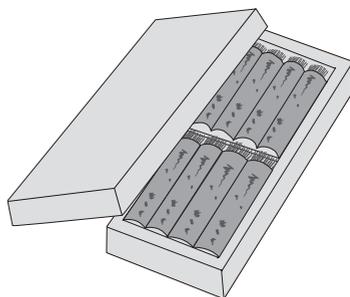
地蔵盆では子供はお菓子をもらったり、福引をしたりして、一日を楽しく過ごします。

**Q** お盆の時に贈ろうと思っている、お線香やロウソクのことについて教えてください。

**A** 線香やロウソクは、お盆の贈り物として最適です。お盆の贈り物として人気の高い製品は、専用箱に線香やロウソクを詰めた製品です。表書きは「御佛前ごぶつぜん」とします。

お線香の場合には、伽羅きやら・沈香しんこう・白檀びやくだんなどの伝統的な香りを主体としたお線香や、花の香りを主体としたお線香もあります。

ロウソクは洋ロウソクと和ロウソク、さらには密ロウソク等もあります。



お盆の進物として最適なお線香

**Q** お中元は、お盆と何か関係があるのですか？

**A** 中国では、上元節じょうげんせつ（旧暦1月15日）、中元節ちゅうげんせつ（同7月15日）、下元節かげんせつ（同10月15日）の三元行事があり、中元は火を焚き、冥界にご先祖様に感謝する日となっています。日本に伝わった三元のうち中元行事は夏の贈答行事となりましたが、そこには贈り主と贈り先が先祖の代から続くものとして、感謝する気持ちが込められています。初盆の方にはお線香やロウソクをお中元にすれば、ご先祖様も喜ばれるはずです。なお、上元節は灯笼を点す行事として知られています。

Q

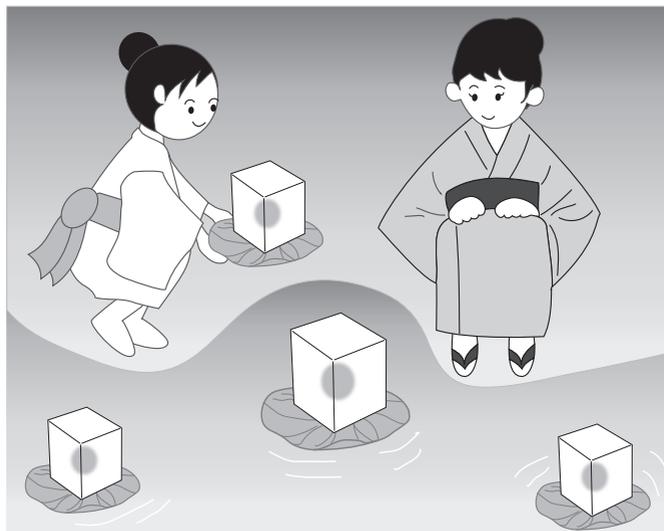
しよりのよ

精霊流しについて教えてください。

A

精霊流しは先祖の霊を船などに乗せて、川や海に流すことを言います。お盆用品を川辺や海辺などに捨てることも精霊流しという地域が、かつてはあったようです。

先祖の霊に見立てた灯籠を船として流すことを特に「灯籠流し」と呼びます。この場合には送り火の一種ともなります。



お盆は地方によって様々な習慣があり、内容も多種多彩です。同じ地域でもご家庭によって内容が異なることがあります。この『お盆百科』では、全国的に見られる共通したお盆の習慣をまとめたものですが、地域によっては本書と習慣が異なることもあります。ご了承下さい。

お盆のご相談はお近くのJAへ。

